



かがみ



【発行】 第105号
八戸市教育委員会教育指導課
八戸市内丸一丁目1-1
Tel 43-2111(内6112)
Fax 47-4997
Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp
令和4年11月18日号

自然災害への備え ～地域の子どもたちを地域で見守る～

大規模な自然災害が全国各地に甚大な被害をもたらしていることから、これまで以上に防災・減災に向けた取組の推進が求められています。

市立全小・中学校では、八戸版防災教育副読本「防災ノート三訂版」を活用した授業や外部講師による防災教室、地域住民との避難訓練等、教育活動全体を通じて防災教育に取り組んでいます。

今回は、津波浸水想定区域に所在する轟木小学校の取組を紹介します。同校では、昨年度、教職員を対象とした研修会を開催し、学校の防災体制の整備を図りました。さらに、今年度は、児童への防災教育の充実に向けて防災教室を開催するとともに、これまでの取組を生かした避難訓練を行いました。

轟木小学校の防災教育について



(1) 8月30日(火) 防災教室：「自分の命を守るための避難の仕方」

(地震・津波が起こったときにどうしたらよいか)

- ・【講師】八戸工業大学 工学部 工学科 教授 加藤 雅也(かとう まさや)氏
- ・【内容】

◎津波はどうしておきるの？

津波は、海底での地震に伴いプレートが急に動いて海底が変形することで、ほぼ同じ変動が海面に発生して引き起こされるものです。

◎津波の速さやパワーってどれくらい？

海の中を進む津波の速さは、水深によって変わり、沖合ではジェット機と同じくらいになります。陸上ではおよそ時速30kmくらいとなり、この速さは50mを6秒で進むのと同じくらいの速さです。つまり、オリンピックの短距離走の選手並みの速さで陸地に押し寄せることになり、陸上では、その速さが長時間に及ぶため、走っても逃れられません。



津波のパワーはとて大きく、津波の高さが小さくても油断してはいけません。例え膝ぐらいの深さでも、動けなくなったり倒れたりすることがあります。津波は、建物にぶつかると瞬間的にその深さの3倍くらいの高さまで跳ね上がります。陸上での津波の深さ(浸水深)が2m以上になると木造の家のほとんどが壊れたり、流されたりします。また、津波は、海の方に引いていく時も強い力を保っていたり、川を遡上したりするため注意が必要です。

まとめ

- (1) 地震が起きたら津波のことを考えて動く
- (2) 避難する時は、遠くより高く
- (3) 海だけではなく、川にも近づかない
- (4) 一度避難したら戻らない

◎自分の命を守るための避難の仕方

津波警報等が発令された際、テレビやラジオ、携帯電話で情報を知ることができます。地震が発生してから30～40分で避難する必要があるため、今年新たに配布された「津波ハザードマップ」を確認するなどして、事前に避難場所を決めておくことが重要です。

事前に避難場所を決めておこう

(1) 学校にいるとき (2) 家にいるとき (3) 通学の途中 (4) よく行くところ

※ 家の人とよく相談して、できればそれぞれ2か所以上の避難場所を決めておくこと。
⇒ 決めたら、必ず避難場所に行ってみましょう。実際に行ってみることで、「冬は寒い場所なのか」、「いつでも中に入れるのか」、「壊れないのか」、「避難の目安である30~40分でどのぐらい歩けるのか」等、実感することで事前の備えができます。

(2) 9月8日(木)地震・大津波の発生を想定した高台への避難訓練

・【内容】

◎災害発生時の避難経路には、多くの「危険」が潜んでいる

震度5弱の地震発生後、大津波警報が発令されたことを想定して、校外にある高台へと避難する訓練を行いました。

児童らは「落ちてくる物、動いてくる物、倒れてくる物」の「お・う・た」に気を付け、「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」の「お・は・し・も」の約束を守って避難しました。さらに、実際に校外の避難経路を歩きながら、用水路沿いや狭い歩道等にある危険箇所についても先生方と一緒に確認しました。

◎「防災ノート三訂版」を活用した事後指導

校外での避難訓練後、事後指導として「防災ノート三訂版」の2次元コードを1人1台端末で読み取り、津波ハザードマップについて学習しました。

児童らは、各自の端末の画面上に映し出された津波ハザードマップを、拡大したり、指でたどったりしながら、実際に自分が歩いた避難経路の基準水位や避難所の位置等を確認するなどして、事前の備えの重要性を改めて実感していました。



避難訓練の感想 6年1組 鈴木 真周(すずき まちか)さん

避難訓練では、地震や津波が起きたときに素早く行動することが大切だということを改めて学びました。また、6年生として下学年の面倒を見ながら避難することができてよかったです。

9月16日の遠足で行った八戸市みなと体験学習館「みなっ知」では、私たちの学校のすぐそばにある五戸川にも津波が来ることを知りました。今回学んだことを家族とも話し合い、地震が起きたときには、自分の命もみんなの命も守れるようにしたいです。

各学校では、地域の災害リスクに応じた防災教育を推進しているところですが、今後も自然災害や様々な危機事象がいつ起こるか分からないことから、地域全体で子どもを見守ることが重要となります。そのためにも、日頃から地域において「あいさつ」や「声かけ」等を通じて、子どもと大人のつながりを深め、緊急の際には互いに声をかけ合いながら、命を守る避難行動ができるよう、青少年の健全育成に取り組んでいきたいと思います。

おしらせ

八戸市少年相談センターでは、青少年の健全育成のために、少年指導員による巡回をこれまで市街地を中心に実施してきましたが、11月からは主に各地域を巡回することとします。地域から推薦された方々が、少年指導員の手帳を所持し、腕章を付けて巡回する予定です。今後とも当センターの活動に御理解、御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。